

「西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学経済学部2年 山本泰山

① 学習成果

プログラム参加前は中国語に対する苦手意識がかなりあったが、参加後はそういった苦手意識は全くなくなり、中国語の学習に強い意欲を持つようになった。また、簡単な文であればまだまだ時間はかかるが作成できるようになった。また、国際理解に関してだが、実際に中国に行ってみることで、中国へのイメージが大幅に変わった。プログラムに参加する前は中国に対する印象は少し悪かったが、実際に街を歩き、現地の学生と接してみても日本人だからといって差別されることも全くなかった。むしろ歓迎される場合が多く、中国に対する印象が非常に良くなり、中国についてもっと知りたいと思った。今後も機会があれば学部生のうちに他のプログラムでもう一度中国に行ってみたい。また、西安交通大学の学生が日本語の勉強をととても頑張っているのを見て、非常に刺激を受けた。今後も中国語の学習を継続していきたい。

② 海外での経験

以前に上海、香港に行ったことがあるが、西安はこれら沿岸部の主要都市と比べるとまだまだ発展が遅れていて、日本との違いに驚かされることが多かった。特に困ったのがトイレで、衛生的に日本と比べるとかなり悪かった。また、人口規模の大きい都市の割に公共交通機関が発展しておらず、市内の移動に苦労した。市内は東西南北に地下鉄が二本通っているだけなので、自由活動日の移動はほとんど公共バスで行ったが、車内の混雑がひどい上、渋滞でほとんど進まなかった。しかし、現在西安ではあちこちで地下鉄の建設工事が行われており、西安交通大学のすぐ近くにも地下鉄が通る予定なので、5年後には市内の移動が楽になると思われる。あちこちで道路や地下鉄、マンションの建設工事が行われている様子は、インフラの整備がほとんど終わっている日本では見られない光景だった。今回西安に行って、一番の思い出はやはり西安交通大学の学生との交流だと思う。サポーターの学生達とは本当に親しくなった。自由活動日には一緒にカラオケに行ったり、中国の伝統武術の部活に体験練習に参加させてもらったりし、中国の大学生の生活を体験することができた。また、サポーターの学生以外にも、たまたま知り合った交通大学の学生（アニメで日本語を勉強した）とも仲良くなり、一緒に遊んだりした。学生達には授業では教えてもらえないような若者言葉の中国語を教えてもらい、こちらもダジャレなどを教えたりしたのも楽しかった。最終日はお世話になった学生全員と晩御飯を食べ、非常に充実した時間を過ごした。向こうの日本語学科の学生で日本の大学に留学に行く学生も居るので、会いにいければと思う。

③ プログラム内容

語学学習だけでなく、中国の文化に触れたり、そして何よりも現地との学生の交流が豊富に用意されていたのがこのプログラムの良い点だと思う。プログラムに主要な観光地、博物館への見学が全て含まれていた上、毎日の食事ほとんど大学側が用意してくれていた。そのため、最初に大学へ払ったお金以外、ほとんど自分でお金を払う必要がなかった。西安は兵馬俑などの観光地は市外でなく郊外に位置しているため、大学側がバスを用意してくれたのはありがたかった。授業では、先生と生徒との距離が非常に近く、なんでも気軽に聞ける環境が用意されていた。最後の発表では、発音こそ下手だったものの、しっかり準備していった結果いい評価をもらうことができ、嬉しかった。

④ 進路への影響について

中国語の学習を継続し、学部生のうちに日常会話レベルの中国語が話せるようになればと思う。卒業後は、具体的にはまだなにも考えていないが、なんらかの形で中国とかかわりのある仕事をしていくことになると思う。